

リジッド担いで山登り【2017,02,25 吾妻山】

神奈川県二宮町の吾妻山からは、菜の花畑越しに富士山を眺められると聞きつけ、早速足を運んできました。二宮町観光協会の脇に登山口への案内が記されています。これを頼りに進むと、頂上まで続く300段に及ぶ階段が現れますので、観念して担いで登りましょう。とは言え、園児が遠足で訪れる標高136メートルの丘ですので、20分足らずで切り切ってしまうかもしれません。なお、吾妻山公園内は自転車乗り入れ禁止ですので、舗装路や平坦路が現れても、決して乗車してはいけません。

管理棟を過ぎると、間もなく頂上です。早咲きの菜の花は最盛を過ぎていましたが、4月頃までは楽しめるそうです。また、1年を通じて四季の花を鑑賞できます。

さて肝心の景色ですが、今日に限って雲が湧き立ち、菜の花越しの富士山は叶いませんでした。しかし銀色に輝く相模湾など、標高の割には雄大な風景を堪能できます。走行練習で近くまで来たら、立ち寄って景色を堪能してみたいでしょう。下山して名産品の落花生を購入したら、国道246号線でのんびり帰らしましょう。

ブログに本文掲載 <http://blogs.yahoo.co.jp/hitofumi300/14674692.html>



東京マラソン2017のコース試走 2017,02,08

2月26日に行われる東京マラソンは、11回目にしてコース変更されましたので、試走り沿道のみどころも探ってみます。

都庁前を出発し、市ヶ谷に至るまでは概ね下り勾配が続き、飯田橋を越えた辺りからはほぼ平坦地となります。再び靖国通りに合流すると、古書店街、スポーツ街を抜けて、須田町交差点から日本橋交差点を目指します。日本国道路原標をしげしげと眺める余裕のあるランナーは居ないでしょうね。ここは、10キロメートル地点でもあり、折り返してきて30キロに向かうランナーが通過する応援ポイントでもあります。金融街を経て江戸通りを北上すれば、最初の折り返し地点吾妻橋交差点からは、アサヒビールのビルとスカイツリーが並んで見えます。蔵前交差点から蔵前橋を渡り、清澄通りを二つ目の折り返し地点富岡八幡宮まで南下します。この辺りが20キロメートル地点で、深川や両国と言った下町情緒を感じながら蔵前交差点まで戻ります。蔵前交差点は、コース中唯一ランナーが3度通過するので、応援も盛り上がる事でしょう。



日本橋交差点まで復路で戻り、中央通りで南下すると、銀座和光の辺りが30キロメートル地点。市民ランナーの疲労が溜まってくるころです。日比谷交差点からは箱根駅伝1区と同じく日比谷通り・第一京浜とつないで高輪二丁目交差点まで進み折り返します。海風が直接当たらないので、大会新記録への期待が高まります。増上寺、東京タワーと過ぎ、日比谷公園に達する手前辺りが40キロメートル地点、応援で盛り上げたいところです。日比谷仲通りからは路面が石畳にかわるので、膝や足首への負荷が変わってきますので、注意が必要かもしれません。東京駅丸の内口の行幸通りに届いたところで、試走はゴールとしました。東京の最先端から、江戸～昭和初期の名残を感じられる箇所まで、広く網羅していたおもしろいコースです。当日は、テレビの前で声援を送るとしよう。

ブログに本文掲載 <http://blogs.yahoo.co.jp/hitofumi300/14653668.html>

リザルト

- 1位 2:03:58 ウイルソン・キプサング ケニア
- 2位 2:05:51 ギデオ・キプケテル ケニア
- 3位 2:06:25 デイクソン・チュンバ ケニア

神楽坂散歩 2017,03,08

様々な面で魅力を持つ新宿区の神楽坂ですが、今回は文学散歩で訪れました。まずは、早稲田通り沿いに、夏目漱石生誕の地および、終焉の地に立ち寄りませう。ここから神楽坂までは歩いても行ける距離ですので、『硝子戸の中』で「買物らしい買物は神楽坂まで出る例になっていた」と語られている様に、多くの文人も山ノ手銀座である神楽坂へ買い物や食事、寄席通いや遊興に足を運んでいました。

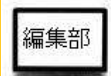
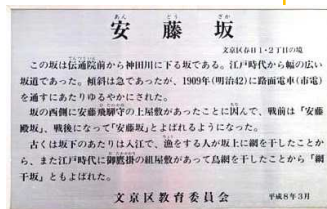
東京メトロ東西線神楽坂駅から出発します。赤城神社では、水木しげるが『げげの鬼太郎』のアニメ化に際してヒット祈願に訪れた縁で、目玉おやじと鬼太郎がデザインされた御守りが有ります。老舗の店舗やお寺巡りをしながら徐々に坂を下り、コボちゃんの銅像を過ぎれば、間もなく神楽坂上交差点です。神楽坂を描いた作品には夏目漱石『それから』『硝子戸の中』、泉鏡花『縁日』『神楽坂の唄』、永井荷風『夏すがた』、北原白秋『物理学校裏』、田山花袋『東京の三十年』、正宗白鳥『神楽坂今昔』、水野仙子『神楽坂の半襟』、矢田津世子『神楽坂』、佐多稲子『私の東京地図』などが挙げられます。

毘沙門天近くの藁坂(地蔵坂)では、『それから』に登場した和装の三千代にとって、舗装もされていない急坂を登るのはさぞ大変だったろうなとか、見番通りで三味線の音を耳にすると、泉鏡花が感じていた風情はこんな感じかな・・・などと、想い巡らす事ができます。

和可菜近辺で黒板塀に石畳、入り組んだ狭い路地と言った文人達が愛した明治から昭和初期にかけての趣を買い食いなどを楽しみながら進むと、あつと言う間に神楽坂下に到着です。三千代の住まいがあったと設定されている伝通院まで足をのばし、安藤坂や金剛寺坂を登って、代助の心象風景に思いを巡らしたら帰途に就くのでした。

ブログに本文掲載 <http://blogs.yahoo.co.jp/hitofumi300/14697032.html>

レポーター: ひばりが丘駅前 そば処 柳屋店主 伊藤秀継



神楽坂の坂の奥の一角に「飲み屋街」があってよく行った。雨の日に行くと客は誰もいなくて、カウンターの奥に体を丸めた地回りの若い衆が座っている 私がカウンターに座ると同時に席を立てて静かに帰っていった。昭和の風景 今もあるのかな。

初めての輪行 平成29年5月

初めて自転車を持って電車に乗るのは大変だ。まず、用意した袋に自転車がうまく入るかどうかが問題だ。入らなければ大変なことになる。次に 電車にうまく乗れたとしても、自転車をどこに置くかが問題だ。乗客の邪魔にならないように配慮しなければいけない。無事に目的の駅に到着出来たら「出発」。
なにごととも 慣れれば問題なし

レポーター: 小林 昭

